

宗岡二中だより 8・9月号



令和6年8月29日

自ら学び考える生徒

学校教育目標：心豊かな優しい生徒

明るく元気な生徒

「過ぎたるは猶（なお）及ばざるがごとし」

校長 伊藤大輔

どんなことにも、ちょうどいい加減があります。
のんびりする時間は本当に大切です。日常の慌
ただしさから距離を置くことで健全な心身を取り戻
すことができます。夏休みに、のんびりと過ごす時
間をもつことはできたでしょうか。ところが、のんびり
し過ぎると、のんびりすることのありがたみが薄れま
す。かえって疲れたり、気力が失せたりすることすら
あります。休息を例に引きましたが、他にも当てはま
ることがありそうです。例えば運動。動き過ぎは体を
壊します。運動不足も体を壊します。例えば食事。
食べ過ぎると気分が悪くなります。食べないでいて
も気分が悪くなります。例えば睡眠。眠り過ぎは体
に応えます。睡眠不足も体に応えます。

例えば勉強。受験対策として、志望校の過去問
に繰り返し取り組む人がいます。私もやりました。そ
のこと自体には意味があります。しかし中には正解
を一字一句間違えずに一心不乱に覚えようとする
人がいます。残念ながら、これはやり過ぎです。完
璧に覚えることに自分を追い込んでしまうと、柔軟
に応じる力が働かなくなるからです。知識は「あれ
ばあるほどいい」と思いがちなのですが実は詰め込
みすぎると、ものを考えることの邪魔をします。と
は言え、勉強をやらなければ、学力は付きません。

勇気はどうでしょう。古代ギリシアの哲学者でアリ
ストテレスという人がいます。この人は「勇気とは無
鉄砲と臆病のちょうど中間のことである。両極端の
悪い例と等しく距離をおくことを最善とする」と考え
ました。臆病すぎると、勇敢な行動はとれない。か
といって無謀なのも勇気とは違う。「何も怖くない」と

自慢げに言う人がいたら、その人は勇敢ではなく、
ただ無謀なだけです。勇者とは、少なくともどこかで
不安を抱えつつ、それを克服して行動する人のこと
です。アリストテレスの考える等しい距離を保つこと
は決して簡単なことではありません。そして、簡単な
ことではないからこそ、人間が人間らしく生きるため
には、その難しい調整に挑む必要があるのです。

始業式で紹介したアンパンマンは、この難業に
挑み続ける真のヒーローだと私は思います。作者の
やなせたかしさんは、「アンパンマンは、ばいきんま
んをやっつけるだけで、なぜ捕まえないのです
か？」との問いに対し、「アンパンマンとばいきんま
んは、光と影、陽と陰、あるいはプラスとマイナスの
ような関係です」と答え、また、「アンパンマンは、な
ぜすぐにばいきんまんをアンパンチでやっつけな
いのですか？」という問いには、「ばいきんまんの悪
事をとめるのが目的で、やっつけることが目的では
ないからです」と答えています。アンパンマンとば
いきんまんの闘いは、誰しもが抱く“良い心”と“悪
い心”の象徴です。常に“悪い心”を自身の“アンパ
ンチ”で制御しながらバランスを保っている人間そ
のものを表しているのです。

さて今号の標題は孔子の言葉です。「偏（かたよ）
らず、過不足なく調和がとれていること」と解説され
ます。一人一人のありかたにおいても、仲間との関
係においても「過ぎていないか／足りていないか」
の感度を高めたいものです。この「さじ加減」を意識
することによって、力を育み、力を発揮し、力を合わ
せて長くも実り多い2学期を創っていきましょう。